



広島の過去と未来

弥富北中学校 稲垣 美羽

【広島研修に行くまでの思い】

私たちは、広島研修に行くまでに、総合的な学習の時間を通してさまざまな事前学習を行いました。原爆の被害にあった人やその家族、アメリカの大統領や一般の市民など、さまざまな立場の人の原爆投下に対する意見を聞きました。原爆の被害にあった人たちだけではなく、日本から攻撃を受けたアメリカの人々も全て含めて、戦時下を生きた全ての人たちが戦争の被害者であるということを考えさせられました。今までは、原爆投下の悲劇的な側面だけを考えていましたが、なぜ原爆投下に至ったのか、原爆投下は必要だったのか、ということについても学びを深めていきたいと考えようになりました。



【しげるちゃん弁当を食べて】

私は、しげるちゃん弁当を受け取った時には、なかなか気が進みませんでしたが、食べていくうちに、折免滋さんがどんな気持ちでお弁当を食べていたのか、また当時の軍の人や政府の人たちがどのような気持ちで戦時下を生きていたのかを考えました。しげるちゃん弁当の後に食べたおにぎりは、いつもの何倍にもおいしく感じました。日頃幸せに暮らしていることは当たり前ではなく、毎日に感謝しながら生きていくことが大切であると考えました。

【広島研修を終えて】

私は事前学習において、「原爆投下は仕方がなかった」という意見が世の中にあるということを知り、何が正しいのかとても悩みました。しかし、実際に被害を目の当たりにすると、どちらが正しいかではなく、「戦争はあってはならない恐ろしいもの」であると思いました。

また、戦時下を生きた人たちは、戦時下においても希望を捨てず、一生懸命に生きていたことを知り、現代を生きる私たちも、しっかりと日々を大切に生きていかなければならないと思いました。

しかし、今でも戦争をしている国や核兵器を持っている国があります。今回の広島研修で学んだ平和への思いを大切にしながら日々を過ごし、戦争を止める方法があるならそれに全力で取り組んでいきたいと思います。

続く平和

弥富北中学校 小川 菜月

【“平和”という言葉】

広島研修に行く前は、「平和」という言葉は、「戦争がなく普通に暮らせること」という程度に軽く考えていました。しかし、実際に平和記念資料館を訪れ、さまざまな資料を目にしたたりお話を聞いたりしたことで、平和とは当たり前のものではなく、これまでの時代を生きた人々がつくりだした、奇跡的な状態であると感じました。



【子どもたちの苦勞】

資料館を見学し、多くの子どもたちが原爆の被害で亡くなったということを知りました。当時、私たちと同じ中学生の子どもたちが、空襲によって火災が周辺に広がるのを防ぐため、あらかじめ建物を取り壊す作業である建物疎開と呼ばれる作業をしており、その最中に被害に遭ったそうです。資料館に展示された遺品の中には、真っ黒に焼け焦げたお弁当箱や、一部が焼けてしまった服などがあり、とても心が苦しくなりました。また、原爆の被害によって親を失った原爆孤児と呼ばれる子どもたちは、戦後も靴磨きなどをして苦しい生活を送っていたということを知りました。

【広島研修を終えて】

私は広島研修に行くまでは、少し軽い気持ちで研修について考えていました。しかし、実際に広島に行き、ボランティアガイドで案内してくれた方々の話を聞き、いつしか真剣に考えるようになっていました。私たちと同じくらいの年齢の子どもたちが、授業を受けずに建物疎開をしていたり、食べ物が不足し満足な食事が得られなかったりしていたということも知りました。お話を聞いて、当時と比べると今の私たちはとても幸せだと感じました。また、戦争の被害にあったのは人間だけではなく、動物や植物にも大きな被害を受けたことも知りました。二度と平和を失わないよう、平和な時代が続いていくように自分にできることをしていきたいと思いました。

図書館だより

問 市役所図書館 ☎65-1117



ホームページ



X(旧ツイッター)

新しく入った本

図 書 名	筆 者 名 など
●大江戸24時	堀口 栄純
●進化論の知られざる歴史	レベッカ ストット
●おかずいらずごはん	木鍋 まわた
●猫語図鑑	リリー チン
●小鳥とリムジン	小川 糸
●赤ずきん、アラビアンナイトで死体と出会う。	青柳 碧人
●はなかつぱとおどらんか	あきやま ただし



今夜は残業ごはん
オレンジページ/出版



ナチュラルボン
チキン
金原 ひとみ/著



13歳からの
世界地図
井田 仁康/編著

図書館では、幅広い年齢層に楽しんでいただけるよう、資料の貸し出しだけでなく、読書会やボランティアによる読み聞かせを行っています。

よつば読書会

- と き 1月11日(土)午前10時～正午
- と こ ろ 弥富まちなか交流館
2階ミーティングルーム
- テキスト 「クスノキの番人」
(東野 圭吾/著)

☆1冊のテキストを会員同士で読み、意見や感想を述べあいながら、読書の領域を広げていきます

おはなしの会

- 対象者 幼児～小学校低学年向き
- と き 1月4日(土)【わらべ】
1月18日(土)【おはなしくまさん】
午後3時～3時30分
- ところ おはなしのへや(図書館内)
- 内 容 絵本や紙芝居の読み聞かせ

- 対象者 乳幼児向き
- と き 1月25日(土)【たんぽぽ】
午前10時～10時30分
- ところ おはなしのへや(図書館内)
- 内 容 絵本やわらべうたによる親子のふれあい

■開館時間 火・水・木・金曜日 午前9時～午後7時 土・日曜日、祝日(月曜日を除く) 午前9時～午後5時

ガイドボランティアが体験した

伊勢湾台風

伊勢湾台風から令和6年9月26日で65年が経過しました。このコーナーでは、現在ガイドボランティアとして活躍しているメンバーの被災体験を紹介します。

⑤ どんどん増水する恐怖

午後8時半くらいに一時的に風雨が弱まり、外の見回りに行っていた両親が帰ってきた。ちょうどそのとき水が入ってきて、家族みんなでも何も持たずにあわててツシ(天井裏の物置場)に上がった。父は仏壇から位牌を持ち出し、水に浮いた畳の上を渡って上がってきた。懐中電灯で1階を照らすと水がどんどん入ってきていて、すごく怖かった。母は弟に「これ以上水がきたら、屋根をぶち抜いて外に出ないといかんよ」と言っていた。自宅は宝川(現在の三ツ又池)の近くだったので、水と一緒に家の中に入ってきた川の生き物が、真っ暗な中でバタンバタンと音を立てていてものすごい恐怖を感じた。

幸いにも水は1階の天井から30cmほど下で止まり、胸をなで下ろした。翌朝は水が引いたので下に降りて、庭のまだ青いみかんと柿の実を食べて空腹をしのいだ。自宅の1軒おいた隣の家の人は家ごと流されていて、学校の同級生では亡くなった子もいた。

被災後は祖母の家で過ごした後、今伊勢中学校(一宮市)に疎開した。先生も同級生も親切にしてくれたのであまり寂しさを感じず、最近まで文通を続けていた友人もいる。疎開先で「伊勢湾台風の歌」を歌ったのを今でも覚えている。

西出律代、当時十四山東部小学校6年生

屋根に避難する住民(鯉ヶ地)▶

